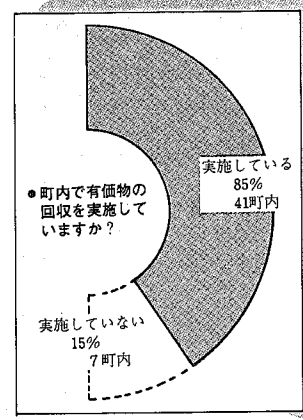
古紙・空き缶 捨てればゴミ でも 再生できるりっぱな資源

有価物回収アンケートから

▶古紙の回収作業

〝資源は有限〟と言われ出してから久しくなりますが、まだまだ私たちのまわりでは古紙や空き缶、空きビンなどはその代表はムダにしているものも多いようです。ゴミとなって捨てられてしまえばゴミとなって的なもの。捨てられてしまえばゴミとなってしまうこれらも、再生ルートにのせれば〝りっぱな資源〟に生まれ変わります。――今号では、先ごろ各町内を対象に行った「有価物回収アンケート」をもとに、資源愛護・ゴミの減量について考えてみましょう。



各町内対象にアンケート調査＊

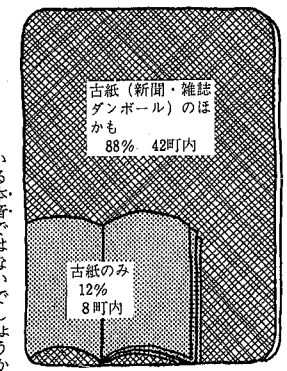
身近にある古紙や空き缶などはくり返し使える資源です。でも、それをいざ再生ルートにのせるとなると、なかなかスムーズにはいかないのも現実のようです。

〝もったいないなぁ〟とわかっていてもつい処分に困ったりすると捨ててしまう――これが有価物の回収を妨げている本音ではないでしょうか。

あるいは〝定期的に回収するならまとめておくのに…〟とか、〝回収体制がもっと整えば〟とお思いになっている方もいらっしゃるかもしれません。

こうした有価物回収の実態などを調査するため市環境整備課では、さきごろ各町内にアンケートを実施、このほど結果がまとまりました。――回答をみながら有価物の再生利用を考えてみましょう。

●どんなものを回収していますか？
〔重複回答〕



ほとんどの町内が回収を実施

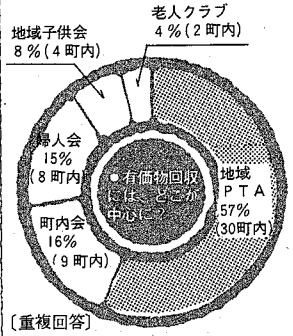
この調査は、回収状況など七つの設問を内容に、九十三の町内・部落を対象に行ったもので回答数は四十八（五一％）でした。――それぞれの答は次のようでした。

『あなたの町内では有価物の回収を行っていますか？』の質問の答えは上のグラフのような結果でした。八五％の町内が実施していると答えていますが、『実施していない』という町内も学区や地域PTAなどで実施しているようで、ほとんどの町内が行っていると考えてもよいようです。

また『どのようなものを回収していますか？』には、右のグラフにあるように多くの町内が古紙以外の回収も実施しているのがうかがえます。

回収実施の主体はPTAが一番

次に『どこが中心になって回収にあたっているか』をお聞きしました。――その結果、PTAがだんぜんトップで五七％を占めました。続いては町内会、婦人会の順でした。



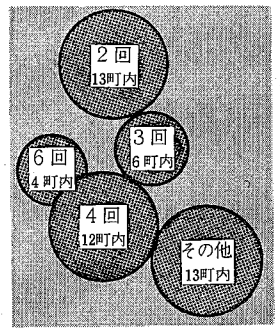
また町内によっては、実施主体が二つ以上あるところもあります。

▼年二回、四回実施が最多▲

また『年間何回ぐらい実施していますか』という質問結果は左下のグラフのようにまとまりました。年間二回実施しているところが一番多く、四回、三回の順と続いています。

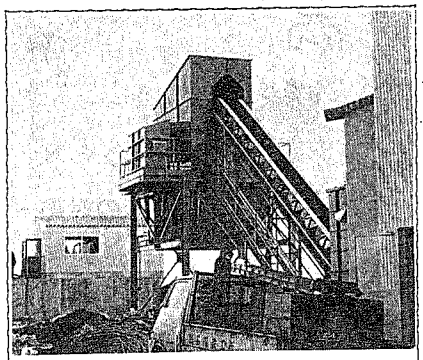
全部の町内（部落）の実施回数を合計すると約百五十回で、一町内の平均は年三・六回ほどの計算になります。

●年に何回実施していますか？



▼売上げ代金は合計二百二十万円余に▲

ところで、実施町内の回収代金の合計の総額は年間で約二百二十二万円にのぼっています。古紙は全部で十一トン、金属類は二十七トンの成果になっています。この調査でわかっただけでこれだけが再生ルートへのせられ、再び資源としてよみがえるというわけです。

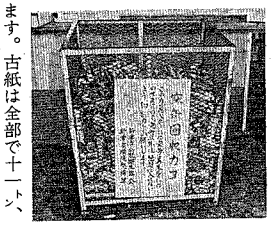


市之瀬に建設中の不燃物処分場

ゴミの減量にご協力ください

有価物もゴミ収集に出せばほとんどが〝眠って〟しまいます。まず燃えるゴミに出された古紙は焼却場で処分され、また不燃物として出た空き缶などの有価物は大半が埋めたて処分されます。――上の写真は、いま市之瀬地内に建設中の「不燃物処分場」です。これまで新関地内で埋めたてていましたが、満ぱいとなったため新たに建設。今春から不燃物はすべてここで処理されます。――施設を長く使うため、ゴミの減量にご協力ください。

空き缶は、決められた場所へ



▼側面からの応援します〝回収運動〟

アンケートに出された意見（下段参照）にあるように、いざ回収実施になると、天候に左右されたり、PRのことなどいろいろと問題が出てくるのも事実です。

でも有価物の回収は、資源愛護とゴミの減量につながる〝一石二鳥〟のものです。――市民のみなさんの中にもこう考えて、協力したいと思っている方も多いのではないでしょうか。実際、この活動に取り組んでいる団体もあります。町内・部落ぐるみでもう一度この問題を考えてみませんか。

市では、各町内の自主性を尊重しながら回収運動へ側面からのお手伝いをすることにしています。これらのことでご相談したいことがありましたら、遠慮なく市環境整備課業務係（内線二九三）までどうぞ。

近年、〝空き缶公害〟が大きな問題になっています。道路や公園のいたるところにゴロゴロしているような状態です。――市公衆衛生協会では、少しでも再生ルートにのせ、環境美化を、と以前から「空き缶回収カゴ」を希望町内に設置して、定期的に業者から引きとってもらっています。空き缶は決められた所へ捨てましょう。

▲……協力を希望▲……▼

最後に『今後市にどのような対策を望みますか』という設問には、「現状どおり側面からの協力を」が八割。また「行政指導を強化して」という要望が二割ほどでした。

アンケートに出されたおもな意見

♥…回収実施の当日、雨天になると集積場に屋根がないため紙類がぬれてしまう。適当な場所探しが必要。

♥…掲示板にポスターを貼ったり、チラシを配ったり、また広報車で回るなどのPRを徹底して回収にあたるべきである。

♥…古紙や空き缶に限らず空きビンなども回収を。

♥…現在、不燃物の中にも有価物がかなり見受けられる。新しい回収方法などの検討が必要だ。年一回ぐらい市で〝廃品回収デー〟などをつくったらどうか。

♥…このような回収には、何といっても住民の協力がなければどうしようもない。

♥…ゴミの減量・資源の再利用を市民にもっと広報などを通じてPRしてほしい。

♥…回収業者によってそれぞれ単価が違うことがある。統一できないものか。また、広報で有価物の値段を年四回くらい記してほしい。

♥…通常のゴミ収集日に出る有価物を保管しておく屋根つきの集積場があったらいいと思う。